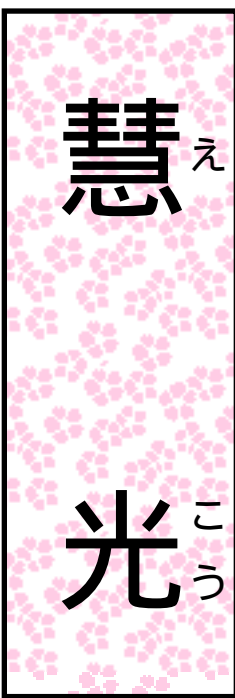




雨に打たれて色鮮やかな紅葉 (11月8日撮影)



金光寺寺報
第197号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月法語カレンダーのことは

信心の智慧にいりてこそ 仏恩報ずる身とはなれ

今月は『正像末和讃』の、
釈迦・弥陀の慈悲よりぞ
願作仏心はえしめたる
信心の智慧にいりてこそ
仏恩報ずる身とはなれ

(注釈版聖典606ページ)

から引用されています。現代語版では、「釈尊と阿弥陀仏の慈悲により、仏になろうと願う心すなわち願作仏心を得させていただいた。信心の智慧を得ることで、はじめて阿弥陀仏のご恩に報いる身となるのである」とされています。

親鸞聖人は、阿弥陀さまやお釈迦さまの慈悲心によって、大菩提心である願作仏心をたまわった人間は、すべての生きとし生けるものを仏にしたいと願う信心の智慧を同時にたまわることから、本当に仏の恩に報いる生き方がどのようなものかを知ることができる、とおっしゃりた

かったのでしょうか。これまで救いのうちにありながらも、そのことに気付かなかった私たちが、あらためて救われることが決まっている尊い存在としての自覚を持ち、すべての生きとし生けるものとともに生きている事実を目覚める智慧をいただく身となるならば、これまで恩に報いることを考えなかった存在が、恩に報いる生き方を考えるようになるということでもあります。

そもそも自分にはないはずの智慧にもとづいた慈悲心が、阿弥陀さまからあたえられてそなわる経験、回向された信心の智慧だといいかえることができるでしょう。だから、救われているという自覚が仏の恩を知ることにつながりますから、「仏恩報ずる身」としてその恩に報いていく生き方がはじまるということなのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 11月 21日(火) 終日
- 12月 21日(木) 終日

- 2018年 2月 7日(水) 午後
- 3月 5日(月) 終日

10月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2017年10月 2日 寂 満87歳
大石の内 西山 エミ子様
- 2017年10月 2日 寂 満98歳
倉本 森本 晴 視 様
- 2017年10月 10日 寂 満88歳
東光寺 山下 マツ子様
- 2017年10月 25日 寂 満95歳
揚 古小路 ヒサ子様
- 2017年10月 29日 寂 満97歳
高鍋町 渡 邊 コト 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
11月9日現在 アクセス数 80,298

仏教用語豆辞典

無 尽 蔵

テレビや新聞の報道を見ると、日本は世界一の経済大国だそうです。外国の人は、日本には無尽蔵にお金があると思っておられるのではないかと、錯覚して

しまいそつです。「無尽蔵」は、取っても取っても尽きないことを意味する言葉です。「仏教語大辞典」によると、無尽蔵の説明の中に、昔、中国で庶民の金融機関として、寺院に設けられた質庫。また、唐の信行の教団が作った経済機構で、多少を問わず信者の喜捨を蓄積して、低利で信用融資した、とあります。日本の無尽蔵や頼母子講の起源でしょうか。こうしてみると、やっぱりお金のことかと思われそつですが、本来の意味は違つのです。

『大乗義章』には「徳広くして窮まり難きを無尽と名づけ、無尽の徳を包含するを蔵」とあり、徳が広大であつて、尽きることのない蔵ということ、早くいえば、仏教の教えのことなのです。わが国は、徳の方面でも大国になりたいものです。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇 PART 1 から)

住職ひとりごと

二年ぶりに今月三日に開催された十区体育祭に参加しました。過去二年は法事があり参加できませんでしたが、今年は寺村組の組長ということで三日の仏事はお断りしたため参加できました。十区体育祭、今年は五十回目でした。途中、二回ほど開催できないことがあったので私が八歳の時には始まったのでうです。ずいぶん古いことなので記憶が定かではありません。鞍岡の区対抗運動会が終わった翌年に始まりました。本年は九区から二人ほど体育祭を見にお出ででした。十一区からは多くの子供たちが来て、競技に参加してくれました。二区からも一組親子で見に来てくださいました。最近参加者が少なくなくなりましたので、徒競走に参加し、こけることなく走れました。でも翌日ではなく数日後の筋肉痛を心配したのですが、五日後の今日(八日)になつても出ません。もう大丈夫でしょう。油断大敵です。か！ (住職 松井卓郎)

いつくしみの心「恩」を届けよう

他人への感謝の気持ちや行動を表現して使われますが、本来はいつく

昨年十一月の寺報を見ると、雨の多い十月が過ぎ去り、十一月に入った途端に寒くなりましたね。祇園山もようやく色づき始めました。寺報がお手元に届く頃には紅葉も見ごろを迎えるのではないのでしょうか」と書いていました。今年も全く同じ状況です。昔は十月は晴れの日が多かったような気がするのですが、これも地球温暖化現象の影響でしょうか。

今年は十月の二日から秋参りを始めました。恩講も今日一日から始まりました。今日(八日)現在、百十七軒が終わり、残り百九十七軒をお参りします。毎年のごとですが、暖かく晴れに恵まれて、バイクでお参りできればと思うことです。

日と十六日です。報恩講では「ご講師」ご講話の後、「恩徳讃」を斉唱します。「恩徳讃」とは『正像末和讃』にある次の一首です。

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
ほねをくだきても
謝すべし

現代語に訳しますと「阿弥陀如来が私にかけてくださる大いなる慈悲の恩徳は、この身を粉にしても報じなくてはならない。釈尊をはじめ七高僧など、如来の大悲を明らかにお示しくくださった人々の恩徳も、骨をくだいても報謝しなければならぬ」となりましようか。親鸞聖人は本願念仏南無阿彌陀仏に出遇えたということ

は、この私の身を粉にしても、骨をくだいても報謝しなければならぬほどの恵みなのだと思われ、かつ、すべての人々に語りかけておられます。

この和讃を口にするとき、私たちは「身を粉にしても、骨をくだいても報謝しよう」と言われる親鸞聖人のお気持ち、そのままだが、親鸞聖人への私たちの気持でもなければならぬことに気づかされます。

「報恩講」という行事をうみだした先人のころも、その伝統を現在に至るまで連続と受けついできた人々のエネルギーも、親鸞聖人への報謝の心に根ざしていることは言うまでもありません。

ところで、恩という言葉は、例えば恩返しというように、一般にはだれか特に世話になっ

しみ・めぐみを意味する言葉です。例えば親の恩というとき、まず、それは親のいつくしみを意味します。そして、物心つかぬうちから私にかけられていた親のいつくしみに気づくところに、子が親に持ついつくしみがあり、それは感謝というかたちで表現されるので報恩といふのです。しかも、恩はどこまでもいつくしみですから、子はまた自分が親となることにおいてわが子へのいつくしみを持つことでもあるのです。

過去からかけられてきたいつくしみに感謝するということは、同時に、未来をつくる物へのいつくしみを持つことに他ならないことを心に刻み、今年の「報恩講」を迎えましよう。

多くの方々のご参詣をお待ちしております。

法語の世界

〈原文〉

蓮如上人、あるいは人に御酒をも下され、物をも下されて、かやうのごとくもありがたく存せさせ近づけさせられ候ひて、仏法を御きかせ候ふ。さればかやうに物を下され候ふことも、信をとらせらるべきためと思し召せば、報謝と思し召し候ふよし仰せられ候ふと云々。

(蓮如上人御一代記聞書 二百十二)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、あるときには訪ねて来た人に酒を飲ませたり、ものを与えたりして、このようなもてなしをあげたいことだと喜ばせ、近づきやすくさせて、仏法の話をお聞かせになりました。「このようにものを与えることも、信心を得させるためであるから、仏恩報謝であると思っている」と仰せになりました。

二〇一七(平成二十九)年 金光寺報恩講のお知らせ

日時
十二月十五日 午前十時〜 日中法要(上下参り)
(九区・十三区・十四区地区)
午後七時〜 速夜法要(お番)
十二月十六日 午前十時〜 日中法要(中央参り)
(十区・十一区・十二区地区)

講師
福岡教区 夜須組 浄覚寺副住職
浄土真宗本願寺派布教使
渡 邊 崇之 師

その他
お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典(お経本)をご持参ください。

報恩講期間中の日中法要(午前十時からの法要)にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後七時からの速夜法要にお参りください。

報恩講は、親鸞聖人のお命日を縁として、浄土真宗の門信徒が一年に一度手継ぎ寺にそろって参詣し、阿弥陀さまのみ教えに出遇わさせていただく、**浄土真宗では一番重要な法要・法座です。**
是非、ご勝縁をお結びください。